



7月13、14日に熊本県で「九州老人福祉施設職員研究会」開催されました。この大会は、九州各県の老人福祉施設関係者が一堂に会し、高齢者の自立支援の取り組みや地域における施設の役割等について研究会議を行い、個々の専門性の向上と老人福祉サービスの一層の質の向上と発展に資することを目的に毎年開催されております。今回は、かたふち村で取り組んだ事例について発表することができましたので、ご報告いたします。

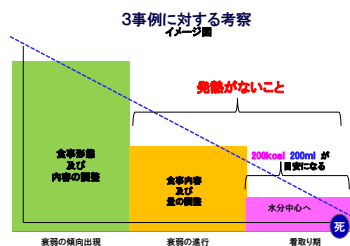
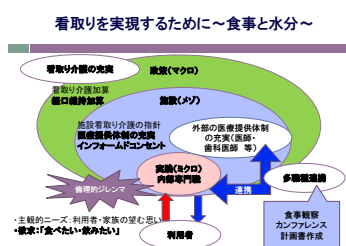
第1日目「基調講演」「記念講演」

初日は熊本県立劇場「コンサートホール」にて開会式があり、あいさつの場面では、くまもんが登場しました。さすがゆるキャラ界のスター。登場したとたんに、会場が和やかムードのなりました。その後、今後の介護保険制度についての基調講演、また、記念講演として、大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室の池田先生より、認知症の行動・心理症状について話がありました。これからは、さらに医療と介護の連携の必要性や福祉職員としての専門性の向上が大切だということを再認識しました。



第2日目 研究発表

2日目は、いよいよ研究発表です。6つの研究部会に分かれ、各県から推薦された発表者が20分の発表を行います。かたふち村は、第2研究部会「科学的介護の実践Ⅱ」で発表を行いました。この部会は、個々の状態に応じたサービス提供を実践するための、多職種連携とエビデンス（データによって客観的に証明されたもの）に基づくケアの提供がテーマになっており、特にリハビリや口腔ケアなどについて各施設での実践と課題についての発表の場となっています。そこで、私たちは「最期まで口から食べる支援を充実させる為に～経口維持加算を用いた看取り支援～」のタイトルで、看取り期における食事と水分摂取について、特に食事内容の変更と、栄養量と水分量の変化から分析した内容を発表しました。



これら3枚は発表スライドの一部

表彰された直後の様子

研究発表に対する審査結果

研究発表に関しては、その研究発表を広く周知し共有する事を目的に、各研究部会ごとに、特に優秀な発表を審査し表彰するため、企画力・発表力・応用力・独自性や深い考察・時間の5つの評価基準から審査員によって審査されます。その結果、かたふち村は第2研究部会で一番評価点数が高かった、「優秀賞」を受賞する事ができました。このことは、約1年半、かたふち村の職員と角町歯科が協働で、悩みながらも実践してきた取り組みが、外部評価されたということであり、ご利用者にとっても有益な取り組みであったと認められたようで、とてもうれしく感じました。発表に関し、快くデータの使用を承諾して下さったご家族の皆さま、そしてなにより、色々な経験や考える機会を与えて下さるご利用者の皆さまのおかげだと感謝いたします。今後も、ご利用者にとって、何が有益であるかを常に考え実践し、その結果について考察を続けることで、今後さらに必要とされる、福祉施設職員としての専門性の向上にむけ取り組んでいきたいと思っております。



夏から秋にかけての行事食紹介

7月7日は「七夕の節句」。季節の食材や、七夕ならではのそうめん寄せなどを詰め込んだお弁当でした。9月18日は「敬老会」で、毎年恒例のお祝い膳です。栗入りの赤飯や、含め煮、抹茶のお饅頭などを準備。毎回節句やお祝いの時は、少しずつ色々な種類を食べることができるお弁当を準備しています。仲良しのご利用者と一緒に食べる行事食は格別のようなですね。皆さんとても満足そうに召し上がっていらっしゃいました。



実習生受け入れ!

今年は、長崎女子短期大学 栄養士コース2名、長崎県立大学 栄養健康学科3年生 2名と、活水女子大学 健康生活学部 食生活健康学科3年生3名がかたふち村に実習にきました。実習中は、特にユニットご利用者と一緒におやつを作って色々なお話をしたり、食事風景を見学させていただいたり、貴重な体験ができました。実習を通し、栄養士・管理栄養士としての責任ややりがいを実感でき、又、対象者の支援を行うには、まずは「知ること」が大切だということが理解できたようです。



特別養護老人ホーム かたふち村
管理栄養士 山田 由貴